

下北の生い立ち

下北最古の岩石

- 太平洋の遥か沖でチャートと、サンゴやメガロドン(二枚貝)の化石を含む石灰岩が堆積(2億4000万年前)
- プレートに運ばれたチャートと石灰岩が大陸に衝突し、大陸の泥や砂と混ざった岩(メランジ)となって隆起、付加体となる(1億8000万年前)
- チャートや石灰岩を割り込み、閃緑岩が貫入(1億年前)

新第三紀火山の大地

- マグマの成分や冷え固まる速さ、鉱物の変質によって、多様な構造(柱状節理、枕状溶岩など)や色(赤褐色、灰緑色など)をした海底火山由来の岩石が見られる
- 仏ヶ浦(1500万年前)
- 弁天島、焼山崎、安部城鉱山の黒鉱形成(1200万年前)
- 願掛岩、鯛島(1000万年前)
- 東北日本で隆起が始まる
- 栗研カルデラの形成(海底火山が陸上火山が不明)火山噴出物がちぢり浜に堆積(300万年前)

第四紀火山の地形

- 下北での火山活動
- 野平 カルデラの形成(192万年前)
- 恐山 朝比奈岳噴火(146万年前)
- 釜臥山噴火(80万年前)
- カルデラの形成(30万年前)
- むつ燧岳噴火(120万年前)

堆積平野の発達

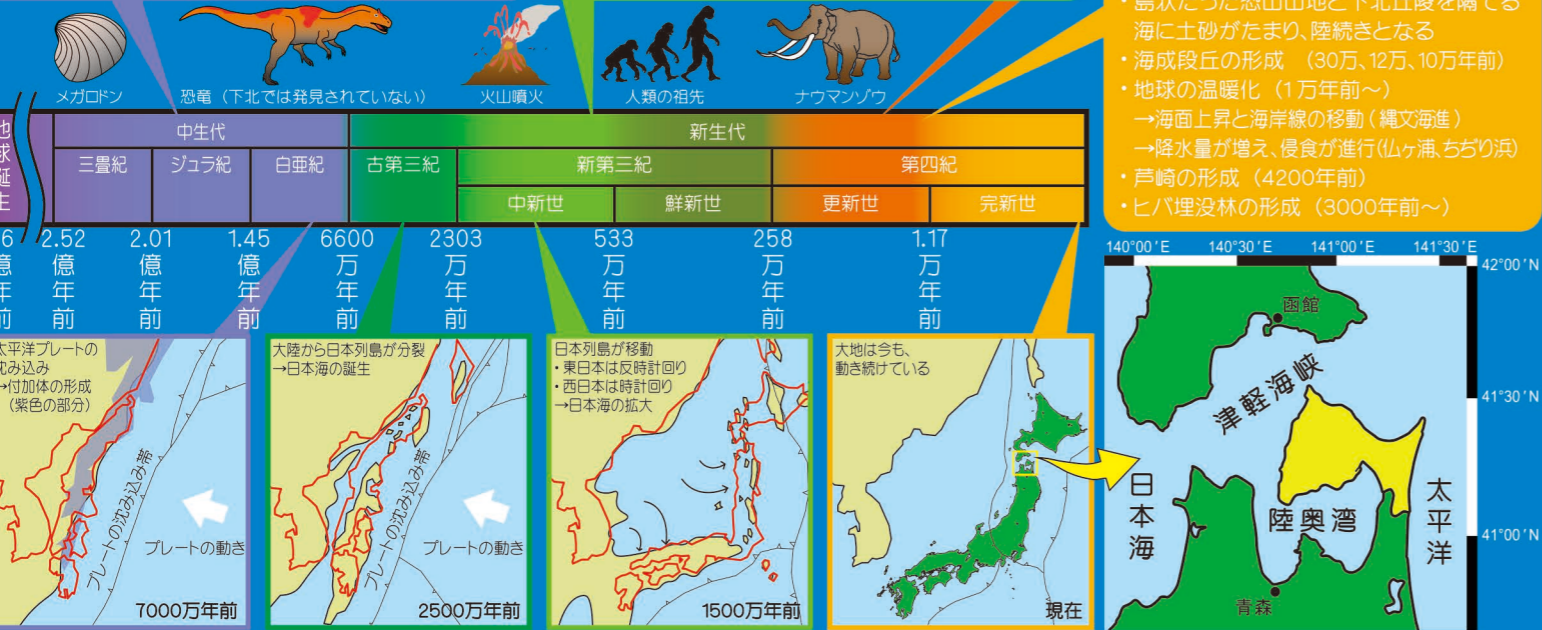
- 島状だった恐山山地と下北丘陵を隔てる海に土砂がたまり、陸続きとなる
- 海成段丘の形成(30万、12万、10万年前)
- 地球の温暖化(1万年前～)
- 海面上昇と海岸線の移動(縄文海進)
- 降水量が増え、侵食が進行(仏ヶ浦、ちぢり浜)
- 芦崎の形成(4200年前)
- ヒバ埋没林の形成(3000年前～)

下北ジオパーク

海と生きる「まさかり」の大地
～本州最北の地に守り継がれる文化と信仰～



恐山のカルデラ



拠点施設でジオパーク情報を集めよう!

施設名	むつ来さまい館	津軽海峡文化館 アルサス	野牛川レストハウス	海と森ふれあい体験館
電話	0175-33-8191	0175-38-4513	0175-47-2115	0175-42-2411
開館時間	9:00～21:00	8:00～17:00	9:00～16:30	9:00～17:00
休館日	年末年始	冬季の土休日、年末年始	火曜日、年末年始	月曜日、年末年始
施設概要	むつ市街地に位置し、下北全域に関する展示を常設。巨大床地図と祭り山車は一見の価値あり。	主に佐井、大間方面のジオサイトに関する展示を常設。「海峡ミュージアム」は入場無料。	主に東通方面のジオサイトに関する展示を常設。東通牛や海産物など村の特産品も販売。	主に川内、脇野沢方面のジオサイトに関する展示を常設。陸奥湾に関する資料が豊富。

ジオパークとは?

「人々の暮らしと、自然や大地とのつながり」を学び、楽しめる場所です。地域の名所や名物が生まれた背景には、その地域ならではの地形や気候、海流などが関係しているはず。自慢の地域資源がどのようにして生まれたのかを知ること、地域をまるごと好きになることができます。ジオパークは全国に43地域あります。各地域をめぐることで、それぞれの魅力をより一層感じることができます。

日本ジオパークネットワーク <http://www.geopark.jp/>

下北ジオパーク推進協議会事務局
〒035-8686 むつ市中央1-8-1 むつ市ジオパーク推進室
TEL: 0175-22-1111 (代)
<http://www.shimokita-geopark.com/>
<https://www.facebook.com/shimokitageopark/>

ジオ旅のお供に!

「ぐるりんしもきた」には下北の交通・観光情報が満載。拠点施設や観光案内所にて**無料配布中!**
発行: (一社)しもきたTABIあしと



ジオサイトの紹介動画を見よう!

スマートフォンなどでアプリをダウンロードし、**<AR対応>**写真を読み込むと、ジオサイトの紹介動画をご覧いただけます。

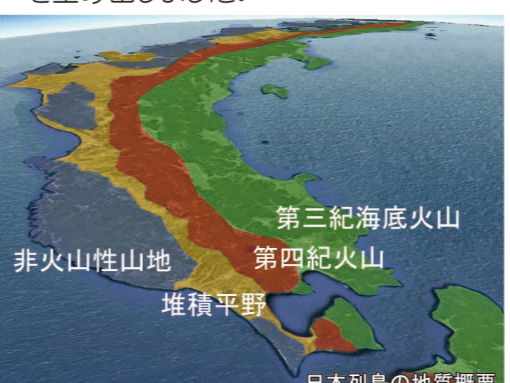


来さまい、下北ジオパークへ!

下北ジオパークは太平洋、津軽海峡、陸奥湾という特徴の異なる3つの海と、これらに囲まれた大地が舞台です。そこに育まれた、下北ならではの生態系や人々の営みに迫りましょう!

4つの地質が集結する日本列島の縮図

日本列島の大地は、長い時間をかけて積み重なった4つの要素で構成されており、下北にはそのすべてが集結しています。この多様な地質が、生態系や人々の暮らしの多様性に色濃く影響を与えています。また、3つの海に囲まれて、波の侵食や寒冷地特有の降雪、結氷によって削られた岩の造形は、信仰や伝説を生み出しました。



津軽海峡が生んだ北限の生態系

約2万年前、北海道には陸続きだった大陸から多くの動物が渡ってきたのに対し、島だった本州の動物は独自の分化を遂げました。本州最北端の下北を分布の北限とする動物が多いのは、深い津軽海峡が本州と北海道を隔てた結果です。また、日本海と太平洋を結ぶ津軽海峡には暖流と寒流が流れ込み、多様な生物相が育まれています。



3つの海に囲まれた半島の暮らし

主幹産業である漁業や観光業はもちろん、北前船や海軍の歴史・文化的背景から、全国屈指の魚介類消費量を誇る日常生活に至るまで、人々の暮らしには海が息づいています。一方、農地や学校などに活用される段丘地形、人々の信仰を集める霊場「恐山」など、海と生きる人々の暮らしは多様な大地によっても支えられています。





大地と海につながるストーリー

A 大地を生み続ける太平洋：⑮尻屋崎、⑯猿ヶ森砂丘
 プレート運動で生まれた古い岩の大地（尻屋崎）と、風で生まれた新しい砂の大地（猿ヶ森砂丘）をめぐることで、様々な時代に様々な要因で太平洋から大地が生まれ続けているを感じられる。また、尻屋崎周辺の日光が届く浅い海底にはコンブが育ち、それを餌とするウニやアワビも特産。 **<AR対応>**
【ジオ+生物】 寒立馬は、持続的な放牧と植生保全を両立できる、30～40頭に管理されている！

B 砂も積もれば産業となる：⑬斗南ヶ丘、⑭北部海岸
 陸奥湾奥部と津軽海峡の間は、20万年前には海だった。そこに土砂が積もったり、隆起したりして現在の平野部が生まれた。北部海岸で今も見られる砂鉄は、昭和後期まで採掘、精錬されていた。砂底ならではのホタテ漁業や段丘面での酪農業など、大地の特徴を活かした産業が盛ん。
【ジオ+食】 速い海流で引き締まった身が特徴の「外地地まきホタテ」は7～8月に野牛漁協で直売！

C 港町から山を越えると霊場へ：①恐山、⑫大湊・芦崎
 下北の中央部には釜臥山を含む恐山山地が連なり、またカルデラが形成されている。釜臥山から生まれた芦崎は、陸奥湾に伸びる自然の防波堤として、北前船や海軍で栄えた大湊の発展を支えた。一方、カルデラの内側は霊場「恐山」。恐山山地を取り巻く景観と歴史に触れられる。
【ジオ+信仰】 恐山奥の院が釜臥山頂にある。山頂まで徒歩15分の釜臥山展望台には車でアクセス可！

D 狭い海岸に生きる理由：④風間浦、⑤大間崎、⑥佐井
 海産資源に恵まれた津軽海峡沿岸には多くの漁村集落が発達したが、海岸部のわずかな平地だけでは土地が不十分であった。しかし、少し内陸にはかつて海底だった平らな段丘面が広がっており、農地を拓き、学校を建てることができた。狭い海岸の暮らしを、広い段丘面が豊かにする。
【ジオ+食】 段丘面ではブランドじゃがいも「オコッペいもっこ」、黒毛和種「大間牛」が生産されている！

E 海に還る森の歴史の川くんだり：⑩野平、⑪川内
 かつてのカルデラ湖底に発達したブナ林の腐葉土は高原野菜、また森の栄養が注ぐ川内川は中流域のヤマメ、河口沖のホタテの生産を支える。一方で、中流域の安部城鉱山からは鉱毒が川に流れ出し、周辺の自然を破壊した歴史も。川によって、森と海がつながっているを感じられる。
【ジオ+歴史】 大正時代、川内町の発展をもたらした安部城鉱山は、日本を代表する銅山だった！

F 海底火山と波の彫刻めぐりクルーズ：⑦仏ヶ浦、⑧焼山崎、⑨脇野沢・鯛島
 大陸から日本列島が分裂して以降、海底で盛んだった火山活動の噴出物が波や雨風で削られた、色とりどりの断崖、島、巨岩・奇岩。これらが連なる海岸線に、脇野沢港から観光船で訪ねられる。なお、仏ヶ浦へは佐井港と牛滝港からも観光船が運航している。
【ジオ+生物】 5～6月にはカマイルカの群れが来遊し、船からイルカウォッチングを楽しめる！

